



白砂兼光 編著

歯科医院でみる 口腔がん 早期発見ガイドブック

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
研究部副主席
武井典子 (歯科衛生士)



A4判/102頁
定価 5,880円
(本体 5,600円+税 5%)
医歯薬出版刊
(2012年3月発行)

がんは、1981年より、日本人の死因の第1位となり、現在では、年間30万人以上の国民ががんで亡くなっています。また、生涯のうちにがんにかかる可能性は、男性の2人に1人、女性の3人に1人と推測されています。2006年、「がん対策基本法」が成立し、基本的施策の第一に「がんの予防と早期発見の推進」があげられ、口腔がんにおいても、予防や早期発見が重要となっています。しかし、口腔がんについては、国民の認識は低く、今後、国民に身近な歯科医院において積極的に検診が行われていく必要があります。就業歯科衛生士の90%は歯科医院で就労しており、日常の臨床で、口腔粘膜を観察する機会がたくさんあります。この口腔観察のなかで、口腔がんを含む口腔粘膜疾患の異変に気づき、歯科医師に報告する等の適切な対応が求められています。さらに、2012年度の歯科診療報酬改定では、「がん患者等の周術期等における歯科医師の包括的な口腔機能の管理」および「歯科衛生士の専門的口腔衛生処置」も評価されました。

そのようななか、本書が出版されたことは、誠にタイムリーであり、歯科衛生臨床における口腔粘膜疾患の観察のバイブルとなると考えられます。本書は、口腔がんを含む口腔粘膜疾患の観察ポイントがわかりやすく記載されており、理解しにくい学術用語には解説がつけられています。また、写真や図が多数取り上げられたビジュアルな編集であり、口腔粘膜疾患の知識を整理しやすい一冊です。

特に臨床現場では、口腔がんを含む口腔粘膜疾患については目で観察する機会が多く、本書においては、色の変化や形の変化など症状別に口腔粘膜疾患の特徴が示されているため、実際の症例に対応して参照することが可能です。Ⅱ章の「口腔病変のみかた」では、色の変化、表面の変化、腫れ方などの口腔内の変化や口腔粘膜の観察の手順が解説されています。Ⅲ章の「口腔の腫瘍」、Ⅳ章の「がんの原因と治療法」では、腫瘍にフォーカスし、より詳細な解説がされており、口腔がんの基礎知識を学ぶことができます。Ⅵ章の「がん患者の口腔ケアと歯科治療」では、がん患者に起こりやすい疾病や口腔ケアの注意点などが学べます。このように、本書は、歯科衛生士が口腔粘膜疾患への観察力を高めるための必携の書といえます。

齲蝕や歯周病の定期健診と同様に、今後ますます口腔粘膜疾患の検診が積極的に行われるよう、本書が、多くの歯科衛生士をはじめ、医療関係者の口腔粘膜疾患に対する認識を高め、口腔がんを含む口腔粘膜疾患の早期発見につながることを願ってやみません。